

「明日から食へぬ」など泣かししることをせざるべし、見よ一旦粗上に乗せられた者は自若として悪むもせぬ、人間奇も事を起したくなれば、假し夫れで敵首されても、自若として死に就くがよい、泣いたり、騒いだり、死際の見苦しい、人間として魚類にも劣つては恥辱である、夫れは平素よりの修養訓練が大事である、故に我等は、徒らには騒がぬ泣かぬ、

苟も泣けば、天も俱に泣き、地も俱に泣き、人も俱に泣くのである、此の修養訓練、之れが我組合の團結する所以で、他の組合と其選を異にして居る所であらうと信ずる、我産業界現在の状態では、不願なる今の資本主の下に労働者の忍び得られざることも数々あり、又た世界の大勢に順應する爲めには、現在の我制度に大改善を施す必要もあらう、

辭せぬ時の到来を期するのである、決して無爲無策にして其日を送るものでないことを世に聲明する、折柄最近に於ける英國の大同盟罷工、之は戦前より懸けた戦後の大問題で、世界の産業界に如何なる革命の動機を興ふるか、其解決の如何に依りて我も亦た研究を要すべきであらう、然れども、日本は日本、英國は英國であらねばならぬ、十把一束之を糶呑にして、直ちに我國に輸入して騒ぐが如きは、即ち之を糶専と云ひ、妄動と云はねばならぬ、組合員諸君は十分其事の理解を得て、今後幾多の問題に向つて、修養と研究とを重ね、堅き信心を造るに努め、運動と示威とか云ふやうなことは第二番にして済ませたいのであります、

（四月二十五日稿）

英國大罷業の経緯

英國今回の大同盟罷工の影響として如何なる印象を日本に與ふるかは實に我々の注目せねばならぬ重大なる事柄である、信ずる、昔に我國のみならず、各列國に於ても自國産業の上に頗る重大なる影響の來るべきに依り、英國の問題が如何に其局を結ぶかを、氣遣ひの眼を以て見つゝ居るのである、蓋し英國は労働に就いては絶かに世界の先進國だけに、此の問題の解決は、世界の久しき疑問を裁判するの値あるかの如く重く見らるゝのである、

政治化したる團結を發生せしめ、其團體の要求として、常に産業組織の改造を主張し、資本経済に大なる動搖を興へつゝ、ある事實は、諸君に於ても既に熟知の事柄なりと信ずる、英國は既に戦前以來に於て、鐵道、鑛山、電氣事業、海業、是等を労働者の管理、乃至國家經營に移すべく主張し、幾度か之が爲めに同盟罷工も繰返した、常に此の問題は英國を悩まし、英國をして愛蘭自治問題と並びて、國家の大患としたるものであつた、左ればこそ獨逸のカイザーが、英國の此の大患あるを見て彼れ論ずるに足らずと見詰つて、戰爭を開いたのであつたが、果するかな、英國の労働者は悉く非戦論を主張し、開戦反對を高唱して居り、英國も同盟罷工に次ぐに非戦運動を以てせられては、つたものにあらず、外は漸次不利に陥り、敗戦の報類に到り増兵の急を告げて來たのであつたが、何しろ労働者の壯丁が非戦論を主張する爲めに増兵の方法が出來ない、日本は勝つては強くなり、敗れば弱くなるが、英國は之れと反對に敗れる

ほど強くなる、國家の存亡を見て黙すべきにあらざるとして、資本家や貴族の子弟は先を爭ふて徴兵に應じて戦地に赴き、身命を賭して國家を擁護する、此の愛國義烈の空氣は全英土を捲ふた、此氣運に乗じ労働者の子弟を戦場に驅るべく、英國政府は労働者に交換條件を約束したのである、之れが今日大同盟罷工の原因を爲して居るのであることを忘れてはならぬ、英國政府は労働者を兵役に驅る爲めにドレンなどの交換條件として約束したか、汝等の主張する鐵道、鑛山、炭坑等の國有問題を未解決の儘戰爭中暫らく之を政府に預けて與れよと政府は戰爭期間此等の事業を資本主より取上げて國家管理に移す、戰爭に勝つれば此の管理は何んとかして労働者の主張の如くに解決を與へ、労働一切の問題も利益の解決を與ふるのみならず、戦中は労働賃銀に對する給料を支拂ひ、戦後は以前の職業に安定せしむべく、若し事業縮少することあるも失業者には相當の救済を爲すべしと、此の條件が労働者を如何程悦ばしめたか、失業すれば國家は救済をする、又た鐵道、鑛山、炭坑等は國家事業と爲れば我々各は在來の資本主を降れて國家との關係に移